ゴダールの探偵（1985）

DETECTIVE

メディア 映画
ジャンル アート　ドラマ
製作国 フランス
色彩 Color
時間 105分
初公開日 1986/05/01
公開情報 ＰＡＲＣＯ＝シネマテン

【解説】

イシドール（レオ）は叔父ウィリアムの二年前の“しくじり”を挽回しようと、彼と恋人アリエルと共に張り込みを続けている。パリ・サン・ラザール、コンコルド・ホテルの窓からの定点観測。叔父はホテルに雇われた探偵だったが、監視中に殺人事件が起き、クビになったのだ。一方、パイロットの夫ルチアーノ（ブラッスール）と共にチャーター機会社を営むフランソワーズことジェヌヴィエーヴ（バイ）は、マフィアの金を４０００万フラン横領したボクシング・ジムの経営者でプロモーターのフォックス（アリディ）から、彼に借した金４０００フランを取り返し、夫と別れて以後の再出発の資金にしようと考えていたが、フォックスにはその程度の金もなかった。家族を連れ悠然と過ごすマフィアのボスの、フォックスへの取り立て勧告の言葉は、紳士的ではあったが重々しく、彼は戦々恐々としていた。金の卵のはずのボクサー、タイガーは女と乳繰りあってばかりだ……。といった四組のグループの錯綜した関係を、ゲーム感覚（コンピューターも登場する）で並走させる、ゴダール流フィルム・ノワール８５年仕様。それぞれの立場や関わりだけ取れば分かりやすい題材が、どんどん上滑りしていって、別の意味を包含するようになる“重層構造”の物語だが、いつもの一本通底するテーマがあまり見えてこないので、かなり“通じなさ”を感じた。ただ、終わりの方に提示される彼が映画を愛する根拠ーー映画は結果であり、勝敗はともかく、賭けはすでに済んでいる。従って“解釈”が王様になり得る、という考えーーには我が意を得たりという所か。エドガー・Ｇ・ウルマーとカサヴェテスとイーストウッドに捧げられたーーということも、作品理解への共通分母とはなりそうだ。

【クレジット】

監督	ジャン＝リュック・ゴダール	Jean-Luc Godard
製作	アラン・サルド	Alain Sarde
脚本	ジャン＝リュック・ゴダール	Jean-Luc Godard
	アラン・サルド	Alain Sarde
	フィリップ・セトボン	Philippe Setbon
撮影	ブルーノ・ニュイッテン	Bruno Nuytten
音楽	ピエール・ガメ	
出演	ジョニー・アリディ	Johnny Hallyday
	ナタリー・バイ	Nathalie Baye
	クロード・ブラッスール	Claude Brasseur
	ローラン・テルジェフ	Laurent Terzieff
	ジャン＝ピエール・レオ	Jean-Pierre Leaud
	アラン・キュニー	Alain Cuny
	ジュリー・デルピー	Julie Delpy
	エマニュエル・セニエ	Emmanuelle Seigner

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.